

# U.S. Indicators

発表日: 2020年4月24日(金)

## 新型コロナウイルスで過去最悪の米企業景況感

～深刻な景気後退を示唆～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
主任エコノミスト 桂畑 誠治 (TEL: 03-5221-5001)

米国では、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐためのロックダウンや、外出制限、イベントの中止、店舗の休業、工場の操業停止による経済活動の休止を背景に、企業活動は急激に悪化している。特に、感染予防のためには社会的な距離を取らざるを得ないことからサービス業が著しく悪化している。また、製造業は新型コロナウイルスのパンデミックを背景とした世界経済の縮小、サプライチェーンの毀損、原油価格の急落による石油探査・掘削の減少に加えて、雇用情勢の悪化や外出規制などによる国内需要の縮小の影響を受け、悪化している。

20年4月の米国総合購買担当者指数（PMI）の速報値は、27.4と前月比13.5%p低下し、統計の作成が開始された09年以降で最も低い水準となった。拡大縮小の分岐点である50を大幅に下回っており、企業景況感は過去最悪の状態となっていることを示している。先行きを占ううえで重要な新規受注はキャンセルや先送りによって、急激に悪化した。

4月は製造業が36.9と前月比11.6%p低下し09年3月の35.2以来の低水準となったほか、サービス業が27.0と前月比12.8%p低下し、過去最低水準を更新した。速報は、集計期間が4月7日～22日のため、4月中旬にかけての状況を示している。4月下旬に一段と悪化しているとみられことから、確報値でさらに悪化すると予想される。

製造業の構成項目をみると、生産29.4（前月47.6）、新規受注28.6（前月46.8）、雇用37.7（前月47.5）、在庫38.2（前月48.8）と全構成項目が大幅に低下し低い水準となった。寄与度では新規受注が前月比▲5.46%p、生産が前月比▲4.55%p、雇用が前月比▲1.97%p、在庫が前月比▲1.06%p、入荷遅延が前月比▲0.75%pの押し下げ寄与となった。また、構成項目ではない輸出受注は25.1（前月47.1）と急低下しており、グローバル経済悪化の影響を受けていることを示している。

一方、サービス業では、活動指数27.0（前月39.1）、新規受注26.9（前月39.5）、雇用37.4（47.7）と大幅に低下した。また、見通しを示す「将来の活動指数」が39.6と同統計の作成以降で初めて50を下回っており、企業が著しく悲観的になっていることを示している。

一部の企業が7-9期の景気回復を期待しているものの、多くの企業は感染拡大を抑えるために実施している活動制限政策の長期化を懸念しており、今後数カ月にレイオフの強化、新規発注の見送り、設備投資の先送りなどの動きが強まると予想される。

(図表) 米国購買担当者指数 (PMI) の推移



(出所) IHS Markit

(図表) 米国生産・活動指数の推移



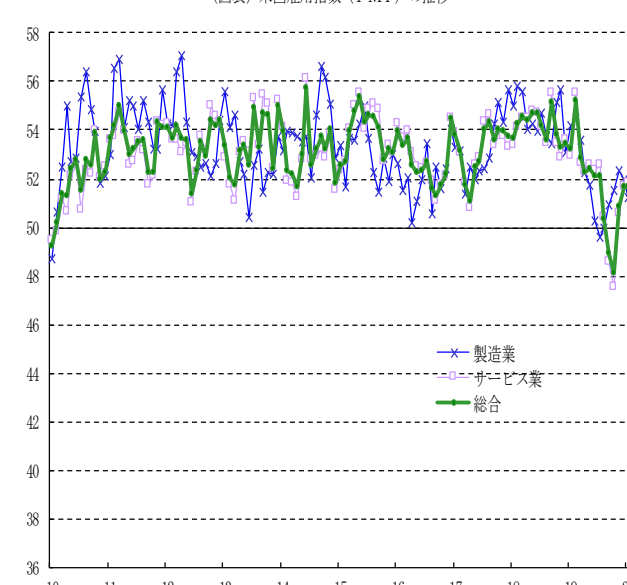
(出所) IHS Markit

(図表) 米国新規受注指数 (PMI) の推移



(出所) IHS Markit

(図表) 米国雇用指数 (PMI) の推移



(出所) IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

